

災害遺構の事例

(一社)減災・復興支援機構
木村 拓郎

地震災害

93. 北海道南西沖地震 (遺構なし)

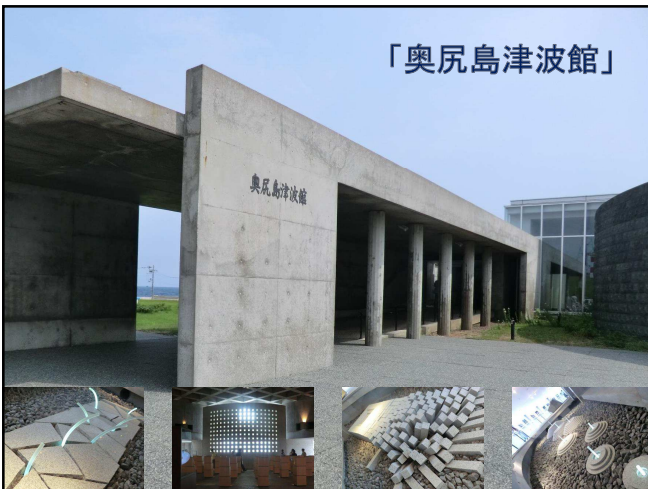
奥尻町の被害



- 死者・行方不明者 198名
- 住家被害 1,410棟(奥尻全体の約80%)



「奥尻島津波館」



奥尻島津波館～教訓を後世に伝える～

外観



北海道南西沖地震の記憶と教訓、全国から寄せられた復興支援への感謝 これらを後世に伝えるために建てられた。

平成12年11月完成。(完成まで2年)
平成13年5月1日オープン。
総工費:11億5千万円
(義援金6億円とコミュニティアイランド推進事業の補助金を活用)

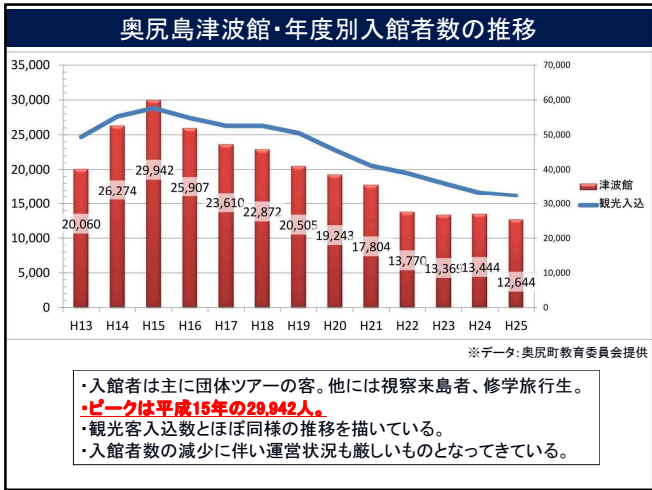
【運営体制】

奥尻町教育委員会の管轄。
館内のガイドとして臨時職員を3名雇用している。本人の震災の経験をお話したり、当時の様子等を語り継ぐ。
雇用期間は4月中旬～11月末。
入館料:大人500円、小人170円

平成25年度の年間入館者数は約1万2千人。



館内



教育旅行誘致～防災教育プログラム～

2010年から奥尻町と観光協会の協働で実施。

防災ロールプレイを中心としたプログラム。
震災の教訓を後世に伝えるため。
島内の防災意識向上も図っている。

地震災害

95. 阪神・淡路大震災

「神戸港震災メモリアルパーク」

被災岸壁60メートルを保存

HPより

野島断層保存館 (淡路市)

これは、ジオ?

料金700円

「神戸の壁」
神戸市長田区で残った防火壁を
北淡震災記念公園に移設



「メモリアルハウス」
断層の近くの住宅。被害は軽微



HPより

地震災害

04. 新潟県中越地震

**中越メモリアル回廊
全体図**



**祈りの公園
妙見メモリアルパーク**
Myoken Earthquake Memorial Park
92時間救出の現場を、被災者遺体の祈りの場所に。

**体験がもたらすものは
おぢや震災ミュージアムもぎえ館**
Ochia Earthquake Disaster Museum
地震を疑似体験し、発生から復興までの月日をたどることで防災知識を再認識！
いざに「そなえ」しましょう！

**はじまりの公園
震央メモリアルパーク**
The Epitome of the Chuetsu Earthquake Memorial Park
震源地の保存・伝承と感謝の気持ちを発信。

**その時、何が起こったか
長岡震災アーカイブセンター きおくみらい**
Nagaoka Earthquake Disaster Archive Center
先進のIT技術を活用した知的情報集積拠点。震災地の上を歩き、そこで起きたことを知らたら、中越メモリアル回廊を巡る旅へ。

**ふるさとがもつ、チカラとは
やまこし復興交流館 (計画中)**
Yamakoshi
そこには、守るべき里山や伝統文化がありました。山の暮らしによる新しい交流の始まりへ。

**記憶の公園
本籠メモリアルパーク**
Kogane Earthquake Memorial Park
震災の集約を見守り、忘れてはならない痛みを伝承。被災地を支えたのはたぐさんの「絆」

川口さずな館
The KIKUCHI Center in Kawaguchi
被災を通して育まれた「絆」にふれることで、新たな交流の未来を開きます。

**山古志
(木籠地区)**



**中越震災の象徴的な場所
天然ダムにより住宅13戸が水没**



河道閉塞も今や観光の名所に。管理はできない。



存置型保存 090519撮影




河道閉塞近くの物産販売所「発見庵」



住民がボランティアで、震災当時の話をしてくれる。2階が資料館、1階では物産の販売も。(復興基金事業)






長岡市妙見の救出劇の現場

被災直後

復旧後



11年10月23日に新念公園としてオープン



震度7を記録した川口町では

今や震災も観光の名所に



小千谷市十二平地区

集団移転の跡地(基礎群)
・各敷地に桜と屋号が書かれた石碑(墓には家族名前が刻まれている)。これは基金事業



10月23日オープン
やまごし復興交流館
おらたる

山の暮らしを伝える



被災を再現した防災学習施設

直後
3時間後
3日後
3ヶ月後
3年後



火山災害

91. 雲仙・普賢岳噴火災害
00. 有珠山噴火災害
00. 三宅島噴火災害

雲仙・普賢岳噴火災害

198年ぶりの噴火

1993. 5の土石流後

2007. 2

雲仙・災害遺構

A. 遺構関係

- ①旧大野木場小学校(現、南島原市)
- ②土砂埋没住宅群(みずなし本陣「土石流被災家屋保存公園」)
- ③かさ上げ記録地点
- ④北上木場農業研修所跡地(消防団被災箇所)
- ⑤「われん川(湧水)」と石原(住民が管理)

B. 記念館の施設

- ①雲仙岳災害記念館(公益財団法人 雲仙岳災害記念財団)
- ②大野木場砂防みらい館(国土交通省)
- ③平成新山ネイチャーセンター(環境省)

C. 石碑など

- ・慰霊碑(犠牲者全員、消防団など)
- ・火砕流最長到達地点
- ・工事竣工碑、6/3定点など多数

1. 国内唯一、火砕流で焼失した大野木場小学校

火砕流で
変形した窓枠

存置型保存

大野木場小学校の保存状況

1. 被害: 1991. 9. 15火砕流で焼失(人的犠牲なし)
* 火砕流で焼失した国内で唯一の学校
2. 土地: 被災後、国の砂防事業区域の指定を受け買収される
3. 保存計画: 住民からの要望を受け旧環江町が2年をかけ計画作成(委員会を設置)
* コンクリート躯体調査など実施
4. 保存事業費: 4500万円(地方特定河川等環境整備事業(起債事業))
5. 保存工事: 屋上防水、バルコニー防水、鉄部防錆など、主に耐久性を保つための雨水対策が中心(広島原爆ドームを参考にしている)
* 建物の周囲にはフェンス(建物内に見学者は入れない)
6. 維持管理費(オープン後)
- 2011年に保存対策工事(1500万円)
* 鉄部防錆、コンクリート保護、下地補修、防鳥ネット設置など
- 除草: 20万円/年、対策追跡調査: 20万円/隔年
7. 事業の実施主体・管理主体: 南島原市(旧環江町)
8. オープン: 1998年9月
9. 見学者会: 無料
10. オープン後の見学者数: 約60万人(年間約5万人)
11. 地元住民を対象にしたアンケート調査(10年国土交通省調査)
「今後も保存すべきが8割」



2. 道の駅
「みずなし本陣」

展示物になった
土石流で埋没した住宅
(屋内に3棟、屋外8棟)



保全型保存

土石流被災家屋保存公園

1. 敷地面積: 約6,000㎡(テント構造部分: 1,200㎡)
* 道の駅「みずなし本陣ふかえ」と併設
2. 保存家屋: 11棟(うち3棟がテント内)
3. 総事業費: 4億8千万円
(地方債: 4億3千万円、一般財源: 5千万円)
4. 維持管理費(オープン後)
- 年間約300万円(うち約70万円がシロアリ対策費)
* 全額、県負担(一般財源)
5. 指定管理者: 南島原市(企画振興部商工観光課)
6. オープン: 1999年4月
7. 見学料金: 無料
8. 見学者数(2012年): 488,789人(道の駅来場者数)
* オープン時: 65万人



火砕流で焼失した消防車
* 書版は入れない

3. 12人の消防団員が犠牲に
なった農業研修所跡
(基礎を保存)



4. かさ上げの場所がわかる
地点(約9Mの擁壁)



5. 唯一残る石礫、石畳、
われん川(砂防施設内)

有珠山 噴火災害



噴石が幼稚園を直撃(00年)



存置型保存



存置型保存

保存された公営住宅と公営浴場(00年)



三宅島 噴火災害

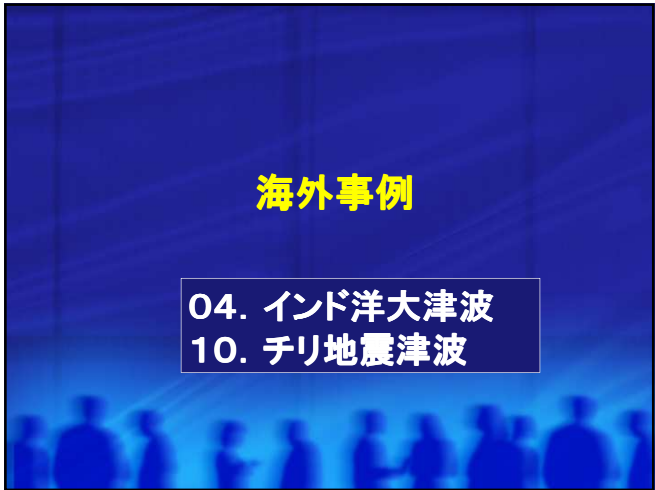
熔岩で埋没したままの中学校(83年)

存置型保存



熔岩の上に火山体験遊歩道
が整備された

土石流で埋没した
ままの鳥居(00年)



海外事例

- 04. インド洋大津波
- 10. チリ地震津波



インド洋大津波 (バンダ・アチェ)

市街地に漂着した発電船

発電船ゲート付近には土産店も



住宅の上に漂着した漁船

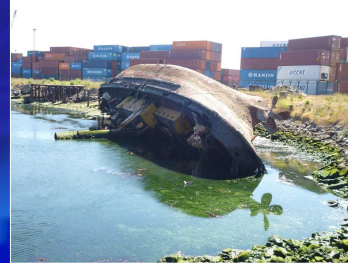
買い物袋にもマーク
来場証明書も発行



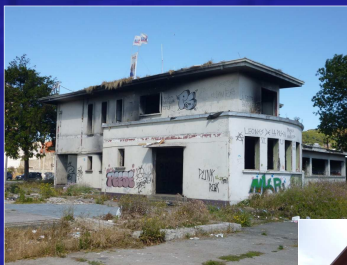


津波の高さが分かるように展示された自動車の瓦礫

チリ地震津波



横転した大型のタグボート
(タルカウアノ市)



焼失跡のある税関事務所
(タルカウアノ市)

チリ地震津波



大破した住宅(トメ市)

被爆遺構

広島・長崎

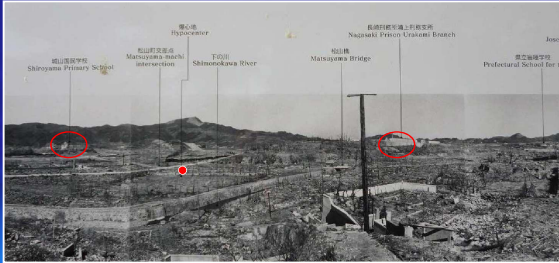


広島・原爆ドーム

経過

- ❑ 本格化するきっかけは1歳の時に被爆し、16歳で亡くなった楳山(かじやま)ヒロ子さんが残した日記。「あの痛々しい産業奨励館(さんぎょうしょうれいかん)だけが、いつまでも、恐るべき原爆のことを後世に訴えかけてくれるだろう」
- ❑ 1964年、11の平和団体が保存を市に要請
- ❑ 1966年、広島市議会、保存を決議。募金運動を開始。
- ❑ 1967年、保存工事実施

長崎・被爆遺構



平和公園

旧長崎刑務所は、爆心地にもっとも近い公共の建物。刑務所内にいた職員18名、官舎住居者35名、受刑者及び刑事被告人81名、計134名全員が即死。現在は遺物の土台が残っている。



基礎が残る刑務所跡地



鉄筋が露出している

城山小学校



1923年、九州初のコンクリート3階建て校舎を持つ城山専常小学校としてスタート。1945年8月9日の原子爆弾により爆心地からわずか500mの距離にあった学校で地域にいた1400余名の児童、31名の教職員、105名の学徒報国隊員等が亡くなった。児童の発案により原爆投下から54年後の99年2月に改装(工事費5000万円)され「城山小平和祈念館」として生まれ変わった。毎年、多くの修学旅行生や一般市民が訪れ、平和学習の拠点になっている(11年の来館者4万人)。管理は、「城山小学校被爆校舎平和発信協議会」。



児童の手書き解説、英語版も

事例まとめ

- 震災関係で残された遺構は多くない。
 - ・阪神・淡路大震災は、ほとんど遺構なし。
 - ・地震津波で大きな被害を出した北海道奥尻島にも遺構なし。
 - ・新潟県中越地震では多くの遺構が残された。
- 火山災害関係は多くの遺構が残っている。(雲仙・普賢岳、有珠山、三宅島雄山)
- 公的に保存されているのは、島原の住宅遺構のみ。他は存置型保存

おわり

次世代の子供たちに何を残せばいいのか？